

令和4年度

営業報告

貸借対照表

損益計算書



株式会社 平成大野屋

営業報告書

自 令和 4年 4月 1日
至 令和 5年 3月 31日

I 営業の概況

1 営業の経過について

(1) 一般の概況

令和4年度は、ワクチンの開発や接種が進む中で、経済活動を再開させつつ、感染への警戒は怠らないよう気をつけて生活する「自粛から自衛へ」という新たな段階に入り、「コロナ禍」によって中止されてきた各地のイベント等が再開されるなど、徐々にではありますが経済活動が活発化しました。

一方、世界情勢の悪化による原油価格の高騰や生産低下による原材料・農産品の不足が顕著化し、食料品をはじめ多くの製品・材料が値上げになったことにより、経済活動や生活を圧迫し厳しさが増した年度でした。

(2) 当社の概況

令和3年度は、コロナ禍の影響もあって大幅な赤字決算となったことから、令和4年度は、その解消のために飲食、物販事業の見直しを行うとともに、結ステーションエリアの管理運営受託事業を行いました。

上半期につきましては、「ウィズコロナ」に舵が切られ新たな段階に入り、ゴールデンウィークには、自粛規制が解かれたことを受け、多くの観光客で賑わい、「結楽座」、「はいから茶屋」とともに、売上は前年を上回ることができました。

下半期は、市内外のイベントや物産展が3年ぶりに開催され、東京都みなと区民まつりをはじめ、各地域のイベントや物産展に出店しました。

会社の運営については、毎四半期ごとに取締役会(5/10・7/14・10/18・2/13)を開催し営業の状況報告と運営について協議を行いました。

また、今期の事業計画に掲げた「当社のあり方についての検討」について、検討を進め、「株式会社平成大野屋の在り方にかかる株主アンケート」を実施しました。

(3) 部門別の状況

<物販部門>

販売部門の総売上高は、47,327千円で、前年より8,332千円増となり、当期の純利益は、2,739千円となりました。

- ① 店頭販売は、34,763千円で、前年より5,416千円増となりました。
- ② 店頭外販売は、10,481千円で、前年度より898千円増となりました。ウェブ広告の効果によるECサイトの売上が向上したほか、銀座にリニ

ユーハルオープンした福井県のアンテナショップ「ふくい食の國291」との取り引きを継続したほか、「岩倉市のJA愛知北産直センター」での米や里芋などの当市の産特産品の販売が定着しています。

- ③ イベント出店の売上は、2,083千円で、前年度より2,017千円増となりとなりました。

新型コロナでの自粛緩和により、地域のイベントや各地の物産展も再開され、5月に九頭竜マルシェ、10月にみなと区民まつり・九頭竜紅葉まつり、11月に古河よかんべまつり・でっち羊かんまつり in ベル・新そばまつり、2月にでっち羊かんまつり、3月には北陸新幹線開業1年前イベント・東名高速道路浜名湖サービスエリア物産市に出店し、当市の特産品や土産品の販売を行いました。

<飲食部門>

飲食部門の総売上高は、11,885千円で前年より1,563千円増となりましたが、当期の純利益では、3,585千円の赤字となりました。

- ① 毎月の売上高は、新型コロナの規制緩和により客足も徐々に増えましたが、夏休み期間の7、8月には猛暑の影響を受けたほか、年度を通して原材料高騰の影響を大きく受けました。
- ② 飲食部門は毎年赤字が続き経営を圧迫する要因にもなっていることから、その改善を図るべく、中小企業診断士の助言を受けながら、2月に飲食部門の人員体制と原材料を見直し、大幅なメニュー変更を行いました。

<受託部門>

大野市からの委託により、観光拠点施設「越前大野結ステーションエリア」の管理運営事業と「販路拡大情報発信事業」を行いました。

(越前大野結ステーションエリア施設管理部門)

- ① 指定管理者としてまちなか観光拠点施設「平成大野屋」の「洋館」「平蔵」「二階蔵」と「結ステーション」の「結楽座」「藩主隠居所」「多目的広場兼駐車場」の管理運営を行いました。
- ・「洋館」「結楽座」 観光案内や飲食サービスの提供、特産品の販売
 - ・「平蔵」 大野市民の文化芸術活動の展示や遠足客の休憩の場としての受入
 - ・「二階蔵」 「天空の城 越前大野城」の動画・写真の展示
鉄道ジオラマの展示
体験型観光の展開による観光客の受入
 - ・「藩主隠居所」 観光客の静かな休憩の場としての利用促進
- ② 結ステーションエリア内の施設の案内サインや老朽化した設備の修繕を行いました。
- ③ 1月14日から3月12日まで「平蔵」で「春を彩る越前おおのひな祭り」を、越前おおのひなまつり実行委員会と共に開催し、期間中は9,769人の来場がありました。

- ④ 「二階蔵」の令和4年度の来館者数は、10,530人で前年度の9,247人から1,283人増加しました。
- ⑤ 市と連携し、「結楽座」の回廊や「洋館」のテラスを日本手ぬぐいで装飾する「結楽座手ぬぐい回廊」を実施したほか、大野市民が自由に出店できる多目的販売スペースを積極的に活用し、各施設がより多くの人々に利用される観光拠点となるよう努めました。

(販路拡大情報発信事業)

販路開拓、特産品などの情報発信事業につきましては、過去に注文を受けた方を中心に、大野市の特産品カタログ「結ギフト」や通販用のダイレクトメール（DM）を送付し、大野市のPRと販路開拓を行いました。

- ・出向宣伝事業 各イベントの出店にあわせた情報発信
- ・DMによる情報発信 6月 お中元用の夏の特産特集
9月 「越前おおのの旬」新米と上庄里芋特集
11月 お歳暮用の秋・冬の特産品観光情報特集
- ・新聞折込による情報発信（市民向け）
 - 4月 平成大野屋・平蔵・二階蔵・結楽座物品販売スペース（ワゴン）の利用案内と結の故郷ロゴ入りPRポロシャツの販売
 - ・ホームページ・ECサイト ウェブ広告や送料無料キャンペーンの実施
販売商品の追加とセット販売
 - アクセス数 前年度比126%（29,788件）
 - 売上額 前年度比133%（309万円）

(4) 経営改善の状況

①飲食部門の経営改善

- ・メニュー形態の変更と人件費の削減（令和5年2月～）
食事を中心としたレストランから少人数のスタッフでも対応できる軽食と喫茶に形態を変更し、パートを含む飲食スタッフを半数以下（7名から3名）に削減しました。

②物販部門の経営改善

- ・結楽座店舗の商品配置の変更（令和4年8月）
お客様が店内でお買物をしやすいように冷蔵ケース、商品棚の配置を変更しました。
- ・仕入れ価格、仕入れ先の見直し（令和4年7月～）
商品仕入れ価格の低減や利益がより見込める商品の仕入れ先開拓に取り組むと同時に、インボイス制度への対応を進めています。

③社員の意識改革（令和4年6月～）

物販・飲食ともに毎月の売上目標を設定し、その結果を社員全員が共有できる

ように社内会議や、接客について外部の講習会へ参加させるなど社員教育を行いました。

(5) 株式会社平成大野屋の在り方の検討状況

大野市当局から、令和8年春の中部縦貫自動車道県内全線開通など、絶好のチャンスを迎える中、タイミングを逃さず、観光誘客の拡大とともに大野ブランドを活用して稼ぐ力の向上を図るため、まちなかの観光活性化に関わる団体の整理統合等の見直しを行い、市内観光を牽引できる新たな組織への再編を目指すため必要な検討を進めていただきたい、との要請を受けたことを踏まえ、取締役会で対応を検討しました。

令和4年11月に取締役会としての考え方を取りまとめたうえで、令和4年12月には、株主の方々のご意見もお聞きするため、「株式会社平成大野屋の在り方にかかる株主アンケート」を実施し、令和5年3月31日付けで報告書を送付しました。

II 会社の概要（令和5年3月31日現在）

1 主要な事業内容

- ◎ 大野市地場産品の販売・開拓
- ◎ 茶屋の営業
- ◎ 大野市からの受託事業 「越前大野結ステーションエリア施設管理事業」
「販路拡大情報発信事業」

2 株式の状況

1 会社が発行する株式の総数	2,400株
1 発行済株式の総数	600株
1 株主数	132名
1 大株主	大野市 310株

3 従業員の状況

当期末現在 従業員 12名
(社員9名、パート3名)

4 事 業 所 福井県大野市元町1番2号 (株)平成大野屋

5 取締役の氏名

代表取締役	南 谷 憲 児
取 締 役	飯 田 俊市郎
取 締 役	此 下 美千雄
取 締 役	塗 茂 ひろ美
取 締 役	野 村 明 志
取 締 役	杉 本 和歌子

(敬称略)

6 監査役の氏名

監 査 役	林 幹 雄
監 査 役	竹 内 宗 義

(敬称略)

貸 借 対 照 表

令和5年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
I 流動資産	25,059	I 流動負債	7,079
現金・預金	15,021	買掛金	2,476
売掛金	8,003	未払費用	2,412
棚卸資産	1,683	未払法人税等	206
未収入金	348	未払消費税等	1,619
その他の流動資産	4	その他の流動負債	366
II 固定資産	544	II 固定負債	0
有形固定資産	290	III 引当金	0
無形固定資産	224	負債の部合計	7,079
投資その他の資産	30	資本の部	
III 繰延資産	0	I 資本金	30,000
資産の部合計	25,603	II 法定準備金	0
		III 利益剰余金	△ 11,476
		繰越利益剰余金	△ 11,476
		資本の部合計	18,524
		負債・資本の部合計	25,603

(注記事項)

有形固定資産の減価償却累計額 2,294,050円

損益計算書

自 令和 4年4月 1日
至 令和 5年3月 31日

経常損益の部 (単位:円)

I 売上高	87,619,357
委託売上	28,429,185
物販売上	47,327,514
飲食売上	11,885,976
その他売上	△ 23,318
II 売上原価	38,447,229
売上総利益	49,172,128
III 販売費及び一般管理費	52,346,797
営業利益	△ 3,174,669
IV 営業外収益	2,261,304
V 営業外費用	4,538
経常利益	△ 917,903

特別損益の部

I 特別利益	0
II 特別損失	0
税引前当期利益	△ 917,903
法人税・住民税及び事業税	206,000
当期純利益	△ 1,123,903

株主資本等変動計算書

(単位 円)

自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日

	株主資本			純資産の部 株主資本	
	資本金	利益剰余金	利益剰余金		
		その他利益剰余金	繙越利益剰余金		
前期末残高	30,000,000	△ 10,352,531	△ 10,352,531	19,647,469	
当期変動額					
当期純損益金		△ 1,123,903	△ 1,123,903	△ 1,123,903	
当期変動額合計		△ 1,123,903	△ 1,123,903	△ 1,123,903	
当期末残高	30,000,000	△ 11,476,434	△ 11,476,434	18,523,566	

監査報告書

株式会社 平成大野屋

代表取締役 南谷憲児 殿

株式会社平成大野屋の令和4年度の事業ならびに収支決算に関し、

その内容および関係書類全般にわたり厳正に監査した結果、事業・

収支とも適正に処理されていることを認めます。

令和5年5月8日

監査役

竹内宗義

監査役

林幹雄

令和4年度 比較損益計算書

(単位円・税別)

勘定科目	令和3年度実績	令和4年度実績
飲食売上	10,322,822	11,885,976
物販売上	38,995,591	47,327,514
事業委託売上	3,642,728	3,970,092
施設管理売上	24,850,920	24,459,093
その他売上	△ 16,117	△ 23,318
売上高	77,795,944	87,619,357
売上原価	32,695,334	38,447,229
売上総利益	45,100,610	49,172,128
粗利益率	58%	56%
役員報酬	0	0
給与手当	26,671,449	26,866,453
雑給	367,498	369,046
退職金	0	100,000
法定福利費	3,392,623	3,598,817
福利厚生費	652,789	663,374
運賃	77,300	167,101
広告宣伝費	2,915,409	2,397,135
販売促進費	163,826	220,494
交際費	0	0
貸倒損失	0	0
旅費交通費	42,763	325,505
通信費	459,227	469,525
消耗品費	1,321,671	1,215,276
事務用品費	322,830	443,574
図書新聞費	57,420	56,741
研修費	8,184	5,565
水道光熱費	5,214,531	5,485,787
保険料	242,680	286,236
修繕費	1,554,364	1,380,823
租税公課	58,376	75,554
リース料	1,593,480	1,041,610
支払手数料	828,767	1,716,485
容器包装費	121,510	195,842
減価償却費	217,347	186,640
清掃費	1,168,650	1,289,821
管理委託費	1,735,500	1,445,955
諸会費	93,250	93,250
顧問料	851,200	835,600
雜費	852,056	1,414,588
販売費及び一般管理費合計	50,984,700	52,346,797
差引営業利益	△ 5,884,090	△ 3,174,669
【営業外収入】		
受取利息	246	177
受取配当金	1,200	1,200
雑収入	2,497,474	2,259,927
【営業外費用】		
雜損失	10	4,538
差引経常利益	△ 3,385,180	△ 917,903
【特別収入】		
【特別損失】		
固定資産除却損	0	0
税引前当期利益	△ 3,385,180	△ 917,903
法人税・住民税	206,000	206,000
税引後当期利益	△ 3,591,180	△ 1,123,903

令和5年度の取組み

1. 総合展望

昨年度の我が国経済は、コロナ禍からの緩やかな持ち直しが続く一方で、世界的なエネルギー・食料価格の高騰や世界経済減速の影響を受け、非常に厳しい経済環境下にあり、今後も先行き不透明な状況が続いている。

一方で、財務省の発表によれば、令和5年度については、引き続き、世界経済の減速は見込まれるもの、「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」の効果の発現が本格化し、

「人への投資」や成長分野における官民連携の下での投資が促進されることから、民需主導の成長が見込まれるとの予測がなされています。

福井県内においては、昨年度からは、コロナ禍によって中止されてきた各地のイベント等が実施されはじめ、今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5月8日以降、季節性インフルエンザと同等の5類感染症に引き下げられたことから、経済活動が活発化していくことが予想されます。

大野市においては、本年秋の中部縦貫自動車道九頭竜ICまでの開通、令和6年春の北陸新幹線福井・敦賀開業、令和8年春の中部縦貫自動車道の県内全線開通が予定されており、これらの高速交通網による経済活性化の大きなチャンスが目前に迫っています。

このビジネスチャンスを活かすため、官民挙げて強力に事業を推進することが不可欠です。

2. まちなか観光への誘客

以下の取組みを行うことで、まちなか観光への誘客を推進します。

- ① 中部縦貫自動車道の県内全線開通や北陸新幹線福井・敦賀開業を見据えた各種事業の展開
- ② 稼ぐ力の向上を目指した「越前おおの産業ブランド力向上戦略」の実践
- ③ 県や関係市町、市内関係団体、道の駅等との連携によるPR活動

3. 結楽座・はいから茶屋の営業

物販（結楽座）、飲食（はいから茶屋）の経営の改善を図り、営業します。

- ① 飲食部門の赤字削減のため、引き続き、業務の効率化等に取組みます。
- ② 結楽座のインターネット販売を一層推進します。
- ③ 店舗販売において、仕入れ価格の見直しや品揃えの充実を図ります。
- ④ 物販・飲食ともに毎月の売上目標を設定し、その結果を社員全員が共有する取組みを継続します。

4. 大野市からの事業受託

《施設管理部門》

本年度は、指定管理受託の最終年度に当たります。

観光拠点施設の「洋館」「平蔵」「二階蔵」「結楽座」「藩主隠居所」「結ステーション」などの施設をより有効に活用して、「越前おおの結ステーションエリア施設」の管理運営を行います。

《販路拡大情報発信事業》

一般社団法人大野市観光協会や一般財団法人越前おおの農林樂舎、株式会社昇竜、公益社団法人大野市シルバー人材センターとも協力し、「まちなか散策」や「天空の城 越前大野城」など、大野の魅力を活かした観光誘客PRを行う中で、販路拡大と情報発信を行うとともに、道の駅「越前おおの荒島の郷」と連携した取組みを行います。

① 情報発信事業

越前おおの結ステーションを中心に、魅力ある観光資源を紹介し、大野の自然や環境の中で生み出される特産品、大野独自の「物づくりへのこだわり」を情報発信することで、大野市のイメージアップに結びつけ、「越前おおのブランド」の情報発信を行います。

- ・越前おおの特産品等のパンフレットの作成とダイレクトメールの発送
- ・ホームページ・オンラインショップの運営
- ・特産品カタログの更新
- ・結ステーションにおけるイベント開催
- ・特産品のプレゼント

② 特産品販路拡大促進事業

越前おおの特産品や農産物の販路開拓を行い、「越前おおのブランド」づくりを推進します。

- ・越前おおの特産品の地産地消推進活動
- ・県外での特産品PR販売活動
- ・交流都市等への出向宣伝活動

5. 観光を軸に稼ぐ新組織への事業承継

昨年度は、結ステーションの機能強化や今後の在り方について、大野市、大野商工会議所、一般社団法人大野市観光協会及び当社の4者で検討会を行いました。

検討会の中では、中部縦貫自動車道の延伸や県内全線開通、北陸新幹線の県内開業によるチャンスを活かし、市内経済の活性化を図るために新たな体制づくりが必要という意見で一致し、12月には、「観光を軸に稼ぐ新組織」の設立準備会を、越前信用金庫を加えた5者により設置し、官民が一体となって取り組める環境整備の準備を始めました。

《今後の方針》

- ① 当社としては、今年度、引き続きこの準備会に参加し、新たな組織への再編に向けた取組みを進めます。
- ② 新たな組織には、当社が設立当初から経営理念としてきた「地場産品の全国販売や土産品の開発・提供」、「市民と観光客のネットワークづくりの場の提供」、「大野ファンの拡大」の3点を引き継いでいきます。
- ③ 令和6年3月31日までとなっている結ステーションエリア指定管理業務の終了後に解散する方向で手続きを進めます。また、再編による新たな組織へ職員および業務を承継し、資産整理を行った上で、株主の皆様に出資金をお返します。
- ④ 今後も、原材料高騰等の厳しい状況が続くと見込まれる中、解散時に株主の皆様へ出資金ができるだけ多く返還できるよう、最大限の経営努力を続けます。

令和5年度数値目標

(単位:千円)税別

項目		令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和4年度目標		令和5年度目標
		令和2年4月～令和3年3月	令和3年4月～令和4年3月	令和4年4月～令和5年3月	令和4年4月～令和5年3月	目標達成率(%)	令和5年4月～令和6年3月
売上高	委託部門(①+②)	27,135	28,493	28,429	28,103	101%	28,773
	①結ステーション エリア施設管理 事業	23,923	24,851	24,459	24,460		24,460
	藩主隠居所 二階蔵						
	②販路拡大情報 発信事業等	受託事業	3,212	3,642	3,970	3,643	4,313
	物販部門	43,834	38,996	47,327	55,000	86%	56,000
	飲食部門	9,312	10,323	11,886	15,000	79%	13,000
	売上値引き戻り高	△ 110	△ 16	△ 23			
	その他部門	0	0	0			
	計	80,171	77,796	87,619	98,103	89%	97,773
売上原価	委託部門	0	0	0	0		0
	物販部門	31,860	28,909	33,630	39,600	85%	40,320
	飲食部門	3,759	3,787	4,817	4,800	100%	4,550
	計	35,619	32,696	38,447	44,400	87%	44,870
売上総利益	委託部門	27,135	28,493	28,429	28,103	101%	28,773
	物販部門	11,884	10,071	13,685	15,400	89%	15,680
	飲食部門	5,533	6,536	7,058	10,200	69%	8,450
	その他部門	0	0	0	0		0
	計	44,552	45,100	49,172	53,703	92%	52,903
粗利益率	委託部門	100.0%	100.0%	100.0%	100%	100%	100%
	物販部門	27.1%	25.8%	28.9%	28%	103%	28%
	飲食部門	59.4%	63.3%	59.4%	68%	87%	65%
販売費・一般管理費		49,397	50,984	52,347	52,103	100%	50,043
営業利益		△ 4,845	△ 5,884	△ 3,175	1,600	0%	2,860
営業外利益	営業外利益	4,943	2,499	2,261	1,200		500
	営業外損失	31	0	4	0		0
経常利益		67	△ 3,385	△ 918	2,800	0%	3,360
特別利益	特別利益	0	0	0	0		0
	特別損失	0	0	0	0		0
税引前当期利益		67	△ 3,385	△ 918	2,800	0%	3,360
法人税・住民税及び事業税		206	206	206	800		960
当期利益		△ 139	△ 3,591	△ 1,124	2,000		2,400

(数字:四捨五入)